

日吉台地下壕保存の会会報

第57号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

(年会費)一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号 00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ : 白鶴 邦子

神奈川区白幡向町 20-49

045-402-9090

その他のお問い合わせ : 喜田美登里

港北区下田町 2-1-33

045-562-0443

2001 年度総会のお知らせ

日 時 : 2001年5月26日(土) 午後2時30分開場

場 所 : 慶応日吉キャンパス藤山記念館会議室

総 会 : 2時45分~3時45分

懇談会 : 4時~5時30分

年に一度の総会の季節がやってきました。一年間の活動をふり振り返りつつ新年度の活動方針について討議します。是非ご来場いただき御発言をお願いします。

今年は、地下壕見学会を同時開催します。ご希望の方はご連絡ください。

同時開催：日吉台地下壕の見学会

日 時 : 2001年5月26日(土)

午後1時~2時30分

見学希望の方は喜田(045-562-0443)までお問い合わせ下さい。

[目次]

2001 年度総会のお知らせ

1 頁

[報告]山動く！日吉台地下壕整備工事完了！！

2 頁

[投稿]大聖院裏山(仮称日吉の丘公園)の地下壕

3~4 頁

ー川田さんへのお礼にかえてー

[報告]箕輪の丘に古墳時代後期の遺跡

4 頁

[特集]李圭植さんが地下壕建設にかかわったお話

5~6 頁

「第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会

7 頁

第9回川崎・横浜平和のための戦争展」大会概要

「活動の記録」など

8 頁

※連載「日吉台地下壕 当時の関係者の思い出話」は次号より再連載の予定です。

【報告】

山動く！日吉台地下壕整備工事完了！！

保存の会運営委員 谷藤基夫

日吉台地下壕保存の会設立以来10年、長年の念願であった地下壕内の整備工事が、この度慶應義塾大学の400万円からの予算化、工事実施により完工、3月30日に工事業者より引き渡しが行われ、保存の会では、4月7日（土）大西会長はじめ運営委員9名が工事完了後の見学を行いました。

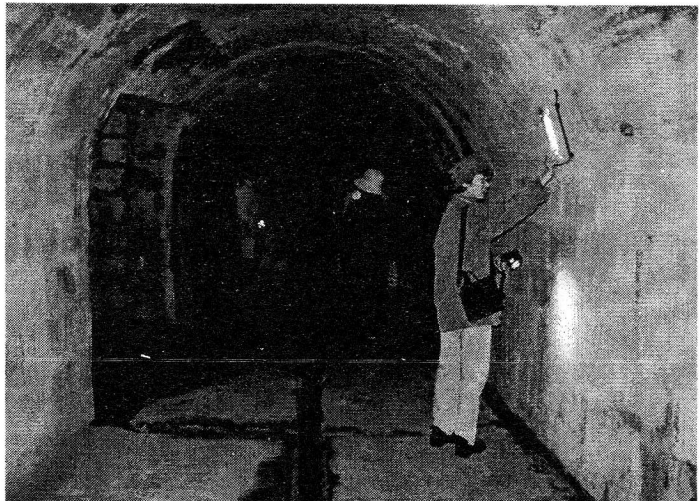
これまで、日吉台地下壕には日吉キャンパス下の民家脇のY字型入り口から民家の方に断って入っていましたが、工事は日吉キャンパス内まむし谷テニスコート脇のブロックによって塞がれていた入り口（一番奥のゲジゲジがたくさんいたところ）から、流入していた大量の土砂を取り除き、マンホールに蓋をし、民家との境をアルミサッシの遮蔽戸で封鎖し、境界を明確にするという、かなり大がかりなものでした。

まむし谷のテニスコート脇から入り口に行く途中、工事で出された土砂が積み上げられていました。白く塗られた鉄のドアを開けて中にはいると、あのゲジゲジのいた突き当たりのスロープは土砂がきれいに取り除かれ、コンクリートのたたきになっていました。斜面を下っていくと、中は空気の流通が良くなったせいか意外とあのジメジメした感じがなく、また中には50箇所ランタン型の蛍光灯がつけられ、点灯すると大変明るく、これならこれから見学の際、懐中電灯も長靴も必要なさそうです。奥へ行って、作戦室、司令長官室、暗号室、無線室なども大変明るく、見学しや

すくなりました。民家近くの入り口側の水洗トイレ跡、米軍の爆破箇所などはアルミサッシの遮蔽戸で封鎖され、非常の場合のみ通れるようになっていました。通路のあの危ないマンホールには鉄の蓋がされ、大変歩きやすくなりました。これなら、この夏の戦争遺跡保存全国シンポジウムに全国から見学に来る方々に、安全に、安心して見学していただくことが出来ると、当日見学した運営委員一同口々に話し合ったことでした。

言うまでもなく日吉台地下壕は、日本の歴史の重要な舞台となった史跡です。この工事はこの重要な史跡を後世に残し、伝えるために大変重要な工事だったと思います。この工事を実施して下さった日吉キャンパス事務局の方々を始め慶應義塾大学の方々のご英断とご厚意に心から感謝いたします。

日吉台地下壕の保存の会の活動は、今後保存の質を高め、資料館の建設を目指すなど、より高く、新しい段階に入っていくだろうという思いを持って見学会を終了しました。



[投稿]

大聖院裏山(仮称日吉の丘公園)の地下壕 —川田さんへのお礼にかえて—

東京 東海林 次男

はじめに

会誌会員で、東京在住・在勤の身なので、日吉の歴史は皆目見当がつかない。ただし、日吉台保存の会の案内で連合艦隊日吉台地下壕だけは2回見学する機会があった。いつの日か普通部側の地下壕も見学したいと思っていた。2月11日、田中伸尚さんの講演(於 かながわ県民センター)が聞きたくて、東横線に乗っていた。横浜に向かって、日吉駅を出発して間もなく、右手に急斜面を削って地肌をあらわにしている工事箇所が目に入った。そして口はふさがれているのだが、蒲鉾を切ったような横穴の天井部のカーブがはっきりと見えた。近くに地下壕があるはずだが、古墳時代末期の横穴の可能性もある。そのことが気になって一週間後の18日の午後、現地を訪ねた。

港北百穴？

現場は、仮称日吉の丘公園一部整備工事が行われている箇所で、日曜日のため工事は休みだった。崖面に4つの断面があるが、内部をのぞける状態ではなかった。この横穴の性格は不明である。ただし、後述する地下壕とはつながってないようであり、地元で「港北の百穴」とよんでいたものの一部という可能性がある。(「とうよこ沿線」編集室編『わが町の昔と今 港北編』2000年15ページ 川田さんから頂戴した本で帰りの電車の中で確認。)

艦政本部地下壕

ここまで来たからには、以前、会報で読

んでいた艦政本部が入る予定だった地下壕にどうしても入ってみたいとなった。自宅を出る際は、そこまで考えていなかった。懐中電灯やカメラは持ってきたものの壕については何の事前学習もしていなかった。そこで開口部を求めて何件かの民家を訪ねた結果、川田さん宅の敷地内にあることが判明した。(その後東側はすべて閉鎖されているが、西側は10本中7口が開口していることが判明。)突然の訪問を侘び、趣旨を話したら、開口部まで親切に案内していただき、入り口に水が溜まっていることから、長靴まで貸していただいた。

単独での潜入なので、十分な観察は出来なかったが、コンクリート覆工している箇所、コンクリートと大谷石の併用箇所、素堀の箇所など壕の進捗状況が推測できた。北から数えて7本目までは大部分がコンクリート覆工しているが、その南側は素掘り状態で、東西の壕を結ぶ南北の阿弥陀くじ状連絡通路？もほぼ同様の傾向がある。床面は配水管を埋設してコンクリートをはった箇所や地面を水が流れたことによって、深い溝が出来た箇所、水が15~20センチ溜まっている箇所など場所によって違っていた。天井には換気口と思われる孔が何カ所もあった。その中には当時のままと思われる金属の覆いがついたものもあった。全般的にみて意外と保存状態は良好である。

おばあちゃんのお話

なかなか出てこないの心配していたとおばあちゃん(1914年生)とお孫さんが縁側で待っていてくださって、お茶を

いただきながら次のようなお話を伺うことができた。(お母さんが帰宅し、途中から話に加わって下さった。)

- ・ 海軍が突然やってきて、一方的に掘り始めた。北の方から掘り始め、壕の前に位置する家はコロを使って移動させられた。ただし、川田さん宅とその南側にある家はそのままだった。)
- ・ 掘り出したずりは、トロッコで畑や田んぼに運び出した。
- ・ 朝鮮の人々も働いていた。
- ・ 空襲の際には、トロッコで壕に避難させてくれた。また、もしもの場合と考えて大切なものをまとめて入れた小屋が空襲で焼けてしまった。
- ・ 金蔵院の裏山に民間の防空壕を掘った。
- ・ 敗戦後のお母さん(1941年生)の

子供時代、地下壕は探検ごっこをやったり、夏にはむしろや板を敷いて涼しい中で勉強するなど格好の場だった。

帰りに金蔵院に寄ってみた。石仏の安置所に整備された2つを含め、防空壕跡が5箇所確認できた。

今後のこと

日吉本町三丁目北地区急傾斜地崩壊危険区域の防災工事は終わりに近づいている。この場所に、3つ開口している。防災工事は、県が行い、地下壕は横浜市の管轄だという。保存の会の奮闘によって、日吉の丘公園と一体となって地下壕が保存されることを東京から念じています。

[報告]

箕輪の丘に古墳時代後期の遺跡

運営委員 喜田 美登里

艦政本部地下壕のある箕輪の丘、仮称日吉の丘公園の整備工事、道路拡幅工事、防災工事が進められ、地下壕の一部は3月末に埋め戻されました。東急線からも、丘の先端斜面が削られて赤土が露出している工事現場がよく見えます。

この斜面に古墳時代後期の横穴墓群が発見され、2月から歴史博物館埋蔵文化財センターが調査中で、地元住民にも知らされないまま、調査終了後(4月6日の予定)は埋め戻されることがわかりました。

箕輪の丘の自然、歴史、公園の整備などに関心を持っている地元市民グループ(自然と文化遺産を守る地元住民の会、日吉・環境を守る会、アオバズクの会、日吉台地下壕保存の会)が横浜市長・教育委員会委員長に「遺跡見学会」の要請を行った結果、4月4日、午後2時から現場の見学会が設定されました。

当日は50数名の参加者が埋蔵文化財セ

ンター、文化財課、公園課の説明を受けました。【箕輪横穴墓群―上・中・下三段にわたって9基の横穴墓が確認され、遺骨の他に、瓶、金属製の装身具、ビーズ(青色)が出土。古墳時代の地域有力者のものと見られる。金蔵寺等、周辺には沢山の横穴墓群が存在する】斜面に組まれた足場上の見学を終え、参加者から質問、意見が出されました。公園課の担当者からは「遺跡は全部擁壁に覆われる。要望にこたえて5月にはあらためて遺跡の報告会を持つ」とのことでした。横穴墓群の出現でこの丘が古代から歴史に富む場所であることを再認識させられました。戦争末期のツルハシの跡、トロッコの跡が残る艦政本部地下壕も、この横穴墓群もできるだけ現況保存し、私たちの学びの場にしたいものです。見学会を要請した市民グループは今後も連絡を取り合い、意見交換していきます。

【特集】

李圭植さんが地下壕建設にかかわったお話

(前号からの続編)

運営委員 茂呂 秀宏

■ 李さんの話

() の発言は同席した保存の会の会員ないし、孫百合子さんの発言です。

(これから保存の会の作業として、多摩丘陵にあった地下壕の場所を確認し地図に記入していきたいと思っています。この大倉山の地下壕についても場所の確認をやっていきたい)

●この地下壕を掘った人たちは、掘ったあとどこかに行かれています。松代の壕を掘った人と大倉山を掘った人は兄弟です。日吉の地下壕、大倉山の地下壕、そして、松代の地下壕を掘った連中はみんな南方にいかされています。私はテニアン島で戦死したその人たちの碑を作りました。

(505部隊と日吉との関係はどうでした。)

●私が軍に入ったのは19歳で1939年でした。身分的には上曹の海軍技術下士官でした。八重桜の印をもっていました。普通の下士官は桜であり下士官のなかでも上の位置にいました。仕事は、505部隊の朝鮮部隊に所属し徴用工への通訳の仕事と同時に、新しく連れてこられた徴用工に日本の習慣などを教えるという簡単な教育もしていた。徴用工は簡単な教育が終わると部隊に配属されました。他の北海道部隊も九州部隊も事情は同じでした。前もって徴用工を受け入れる仕組みを作っていたのでしょう。

最初に配属された豊洲には8000人位の人があったが そのうち500名ぐらいが軍人で残りが徴用工であった。

●最初の地下壕建設の仕事は厚生省あたりの地下壕建設でした。そのあと日吉に行き海軍司令部の壕を掘り、そのあと大倉山の仕事をしました。地下壕建設での自分の仕事は、運輸部門を担当し多摩川などから砂・砂利などの資材を運ぶ仕事をしました。

●日吉には、豊洲から通いました。自分たちが日吉にいった時は、既に穴は開いていた。日吉では、徴用工には直接接することはない、通訳的な仕事もしていません。

多摩川で、民間人ないし徴用工が掘った砂利・砂を積み、日吉に運んだ。多摩川には今でも朝鮮人の部落があるはず。二子多摩川(神奈川県側)に朝鮮部落があります。

砂利・砂は慶應大学の裏あたりに運び込んだと思う。徴用工が運んできた砂利・砂を下ろした。

●指揮している人たちは、徴用工をなぐったり蹴

ったりはしなかったが、人間扱いはしていませんでした。また、夜中まで砂利・砂を運んだことがあります。厚生省の場合は24時間動いていた。砂利・砂はここでも多摩川から運んでいました。

(地下壕の建設では徴用工の指揮を李さんは取っていませんでしたね)

●日吉では近づけてもらえませんでした。30名の1班の徴用工に指揮官がついていました。砂利・砂を運ぶとき、トラック12台が一編成になっていました。

(地下壕に入ってみたいとおもいませんか。)

●いやだね。

でも松代にもいったが、松代はひどかった。本当に人間扱いをされていなかった。あそこは地震地帯で温泉で中は暑かったのです。この工事は極秘でした。ここで工事したものは、すべて海外に行かされています。松代に手をつけたものは、徴用工であれ、兵隊であれ。口封じです。わたしは松代に食料を2回ほど運んでいました。日吉に比べて、岩が硬く、つるはしでは掘れず、ダイナマイトでやっていた。服装はぼろぼろで、これが軍隊かと思わせるほどでした。

●桜の咲くころ、大倉山に配置換になった。短期に変えられた。多摩川から砂利・砂を運んだ。大倉山では、花咲建設、馬淵建設が入っていた。

(防衛庁資料では、日吉では300設営隊、3010隊という名前が出てきますが、わかりますか。)

●よくわからない。505部隊は工兵隊です。寒い時期に日吉に入ったのは覚えていた。入れ替わっているのかもしれない。3010は北海道ではないか。

●もし本をだされるなら、テニアン島については、ぜひふれてほしい。

(地下壕建設に携わった工兵部隊が口封じのために激戦地送られたということですね。)・・・徴用工の詳しい記録強制連行の記録については多分大倉山で焼かれた書類の中にあっただけでしょうが、テニアンの碑は貴重なその証拠資料です。テニアンで戦死した朝鮮人徴用工の碑です。テニアン島はアメリカの基地(原爆投下のB29の発進基地)で有名ですが、もともとは日本軍が飛行場を作ろうとしました。そのために工兵部隊として日吉の地下壕建設を終えた505部隊が投入され、朝鮮人の徴用工は全滅状態になったのではな

いかと思います。このように考えたのは、横井庄一さんのように戦後生き残った人がテニアンにあり、その人の子供の証言を聞いているからです。証言したのは金という人ですが、「お父さんがテニアンの飛行場を作るために神奈川から連れてこられた。生き残ったのは3人だったということを書いて」という当事者の息子さんからの証言を聞き判断をしました。この話を韓国にいき有名な大学の先生に話をし、その結果その先生自身も含め遺骨収集を行いました。

(どのくらいの数でしょうか)

●1000人ぐらい……。

もっとこの事実を明らかにしていきたい。事実を多くの日本人に知ってもらいたいと思っています。

(李さん以外に当時の日吉のことを知っていらっしゃる方はおりませんか、また、どのような方法でそのような方を探すことができるでしょうか。)

●多摩川周辺にはまだ生き残ってるかな。

(昔榮団地には聞き取りに行ったことがあるのですが、わからなかった。日吉の地下壕建設と聞いたのでわからなかったのかな、砂利採取をしていたと聞くと違うのかもしれない。李さんは、連合艦隊の司令部をつくっているということは知っていましたか。)

●知っていた。ただどのような工事をしているのはわからなかった。

(保福寺というところに2体の身元不明のお骨が残っています。)

●日吉では40～50人の犠牲者がいたということは聞いています。

松代では500人位という話を聞いている。2回落警があったから。

(日吉山の仕事が終わってどうしましたか。)

●一応505隊にもどり次に蒲田で民間工場に入った。その時だったかな、諏訪湖の人間魚雷の実験のための道路を作ったこともあります。

(このような地下壕を掘るために連れてこられた朝鮮人が敗戦後周辺に住みついているという話は聞いたことがあるのですが。)

●こと日吉と大倉山についてはありませんね。

(先ほどの多摩川の話ではどうでしょうか。)

砂利・砂を掘った人が居残ったということは考えられますが、日吉・大倉山に関するひとはいない、ほとんど海外にやらされてしまった。

(一般に徴用工と城塞建設に携わった人はでは扱いが異なったのでしょうか)

●たとえ話せる人がいたとしても自分がやったということを表に出したがりません。

(日吉には、505部隊以外に朝鮮の部隊はいなかったのですか。)

●いたとは思いますが、わからない。わかっていることは、豊洲から700名ぐらいの朝鮮人部隊を日吉につれてきたということ。その人たちは北

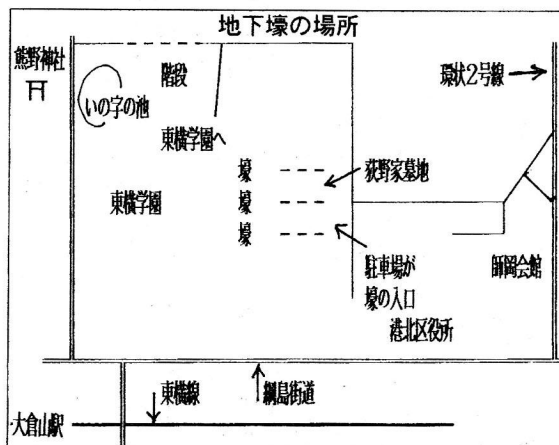
朝鮮から強制的に連れてこられてきた人です。

(生き証人がなくなっていくということで時間との勝負ですが、事実を少しでも明らかにしていきたいですね。)

■大倉山Eさんの話 (2001/1/21)

(Eさんは、李さん孫夫妻が既に11月4日にお会いしている方です。第1回目の話のあと、李さんと孫さん夫妻は、大倉山を訪ね偶然にEさんと会い、その場で李さんとEさんは大地下壕(倉庫)のあとを確認しました。Eさんは70歳で、当時から現状の場所に住み、壕の工事から海軍省から持ち込んだ書類の焼却の様子、そして、米軍の占領の状況を地元の住民の目から見ていた人です。この日、私たち保存の会の会員3名はEさんの案内で壕のあとを確認することができました。また、お話をうかがいました。以下その記録メモです。)

- ・工事については、トラックの出入りなどでわかっていて、中には立ち入ることはできなかった。
- ・工事の事務所が現在の北村さんのお宅のところにあった。終戦直後、大綱小学校に一時なっていた。
- ・S20. 8. 15から連日、書類を焼いた。灰が家に飛んできた。
- ・当時海軍省が書類を保管するために壕(倉庫)を作ったということは知っていた。
- ・9月上旬米軍が單車できた。
- ・壕そのものを見たのは、終戦後である。
- ・工事で朝鮮人を使っていたことも知っていた。戦後池の中から牛の頭が5頭分出てきた。・壕の土地の所有者は小松原(伊豆堂ヶ島ホテルの所有者)、荻野家(現在墓地がある。)などである。当時の土地の「売買」の状況については、地主で当事者である荻野さんが知っているかもしれない。
- ・壕はこの土地の宅地造成の時完全に取り壊した。



第5回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会

第9回川崎・横浜平和のための戦争展

準備が進められています。会員の方のご協力を！

会員の皆様は先刻ご承知のように、日吉台連合艦隊地下壕のような、かつてのアジア太平洋戦争の戦争遺跡は、21世紀の今日に至っても、なお、全国至る所にその歴史的価値を正當に評価されることなく散在、放置されています。

今年の8月4日(土)、5日(日)川崎平和館を中心に行われる標記の戦争遺跡保存全国シンポジウムと平和のための戦争展は、これまで数度の打ち合わせ、会合をもって、準備が進行中です。北は北海道から南は沖縄まで日本全国から、戦争遺跡の保存に取り組んでいる団体、個人が川崎に集まり、その活動の状況を報告、討議します。全国の活動の経験から日吉台保存の会として学べるものはこれまでも、またこれから大変大きいといえるでしょう。

これまで全国シンポジウムは、松代、沖縄、京都、南国(高知)と主として西日本で行われ、東日本、首都圏で行われるのは川崎が初めてです。

日吉台地下壕保存の会は戦争遺跡保存全国ネットワーク設立当初からの呼びかけ団体として、

今年度の活動方針でも確認されているとおり、このシンポジウムと戦争展を成功裏に進める活動の中心になっています。

大会は分科会討議が中心ですが、全体会では、ミッドウエイの研究著作など海軍日吉台地下壕とも関係の深い研究をされている著名な作家の澤地久枝氏のご講演が予定されています。また戦争展の発表として全国の戦争遺跡のパネル展も予定されています。また若者の分科会も設定され、昨年の大会同様、あるいはそれ以上に若い人たちの戦争あるいは戦争遺跡保存への思いが語られることになりそうです。また夜に行われる全国の保存に取り組む人たちとの交流会も楽しみです。

それでも 全国から来られる戦争遺跡保存に取り組む方々に神奈川、川崎に来て良かったと思われるような大会にするためには、やるべきことは山ほどあります。事務的な活動もどっさりあります。大会直前の準備と当日の人手はいくらあっても足りません。会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお願いします。

大会概要

1. 日時：2001年8月4日(土) 5日(日)
2. 会場：川崎平和館 全体会 分科会
法政二高 分科会
3. 日程：8月4日(土) 9:30~11:30 フィールド・ワーク 日吉台地下壕見学
13:00~15:00 開会式 記念講演(作家 澤地久枝氏)
演題 「語りつぐべきこと」
15:15~16:30 全体会(基調報告、地域報告)
18:00~20:00 交流会 日吉東急3Fフード・ギャラリー
8月5日(日) 9:00~12:00 分科会①
第一分科会 保存運動の現状と課題(法政二高)
第二分科会 戦争遺跡の調査方法と保存技術(法政二高)
第三分科会 平和資料館・若者への継承(川崎平和館)
13:00~14:30 分科会②
14:30~15:30 全体会
15:30~16:30 会員総会 閉会
17:00 撤収完了 反省会

※全国戦争遺跡パネル展を併行して川崎平和館展示場にて実施します。

※日吉から平和館への会場の移動は東急バスを手配します。

※2日目の昼食の手配もします。

4月22日(日)は、川崎平和館 午後6時~第3回現地実行委員会及び現地実行委員会発会式
詳細は、保存の会運営委員までご連絡下さい。

あなたが選ぶ『かながわ未来遺産100』 日吉台地下壕が60位に選定される

「あなたにとって、私たちの故郷かながわの未来に残したい『たからもの』は何ですか。自然・文化・物産などの中から選んでください。」

2001年「希望の年」記念事業として神奈川県・神奈川新聞社の主催で募集する「かながわ未来遺産100」が3月30日神奈川新聞に発表されました。

日吉台地下壕は60位(464票)に入っています。応募総数20万4703通。

1位は「みなとみらい・ランドマークタワー」の1万1915票。2位「長谷の大仏」3位「山下公園」。15位小網代の森25位赤レンガ倉庫54位猿島等。

選ばれた100項目は、神奈川新聞に順次紹介されます。『県民のたから』の一つに選ばれた事は、戦争遺跡を保存し、過去から学び、未来へ伝える私たちの運動の力になります。会員の皆様から多数応募頂いた事と思います。有り難うございました。

2001 平和のための戦争展 in よこはま

日程 6月1日(金) 10時～19時 ◇トークと音楽の夕べ 6/1 18:30-20:30

6月2日(土) 10時～19時 講演 山中恒さん(童話作家)・ベトナムの楽器トムの演奏

6月3日(日) 10時～18時 ◇展示 横浜空襲・学徒疎開・勤労動員/日吉台地下壕・栄区燃料廠/船と戦争

会場 かながわ県民センター

原爆展/占領下の横浜/米軍基地/沖縄関係/アジアでの戦争/横浜教科書裁判 他

(横浜駅西口 312-1121 1階展示場・2階ホール) ●お問い合わせ ☎045-241-0005「2001平和のための戦争展inよこはま」実行委

活動の記録

2001. 1～2001. 4

- 1/21 大倉山地下壕の場所を確認
Eさんの話を聞く(齋 藤 嗣)
- 1/25 第8回運営委員会 会報56号
発送(慶應高校物理教室)
- 2/3 戦争遺跡保存全国ネットワーク
運営委員会 川崎市平和館
- 2/21 第9回運営委員会(慶應高校物
理教室)
- 2/26 戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県川崎大会実行委員会準備会
- 3/2 戦争遺跡保存全国ネットワーク
の代表、運営委員が文化庁近代遺跡総合
調査の状況について文化庁を訪問(佐
々木 隆 嗣 齋 藤 嗣)
- 3/14・15 戦争遺跡保存全国ネット
ワーク代表の十菱駿武氏と共に横浜市災
害対策室防災技術課、緑政局公園部建設

- 課、教育委員会文化財課に「日吉台海軍
艦政本部地下壕についての提案」を提出
する(保存・活用の方法) 齋 藤 嗣 齋 藤 嗣
- 3/21 第10回運営委員会(慶應高校
物理教室)
- 3/28 戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県川崎大会実行委員会準備会(日
吉東急フードギャラリー)
- 3/30 日吉台地下壕の整備を慶應大学
が完了、業者の引き渡しと内部視察が行
われる(大西会長が参加)
- 4/4 箕輪横穴墓群の現地見学会
50名参加(齋 藤 嗣 齋 藤 嗣 齋 藤 嗣 齋 藤 嗣)
- 4/7 整備された日吉台地下壕に入る
(保存の会メンバー9名)

予定

- 4/18 第11回運営委員会 会報57
号発送(慶應高校物理教室)
- 4/22 戦争遺跡保存全国シンポジウム
神奈川県現地実行委員会(川崎市平和館)
- 5/26 日吉台地下壕保存の会総会(慶
應大学藤山記念館)

★★★6月に八王子の浅川地下壕見学を予定しています。詳細はお問い合わせください。★★★